

### 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	2050年ゼロカーボン達成に向けた環境意識啓発事業
事業主体 (連絡先)	立科町 北佐久郡立科町大字芦田 2532
事業区分	(5)環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,650,000円 (うち支援金: 1,320,000円)

#### 事業内容

立科町は2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指すことを表明したことにより、町民の環境に対する意識の醸成を図る必要があると考えた。そこで、町民に向けた環境情報紙の配布及び環境に関わるイベントを開催した。

##### ①環境情報紙の配布

環境情報紙の配布を計4回(6月、9月、12月、2月)に実施。

##### ②たてしな風の子環境フェア 2022

たてしな風の子環境フェア 2022において、町からの取組の紹介、住民ディスカッション、県の出前講座等を実施。

##### ③小型小水力発電の学習会

講師を招き小水力発電の学習会及び小水力発電設備の見学を実施。

##### ④公共施設での環境ブース設置

ふるさと交流館において、環境ブースを設置した。環境啓発パネル、本、自然エネルギーの仕組みを利用した発電機器の展示。

#### 【目標・ねらい】

- ①町民の環境に対する意識の醸成
- ②イベント参加者の増加
- ③各家庭において、自主的な取組の実施

#### 事業効果

①環境情報紙は当町内全戸へ配布しただけでなく、立科町内にある事業者にも配布を実施。掲載内容に関しての質問や問合せを多数いただいた。

②講座の開催についての来場者アンケートでは、イベントに対しての印象は87.5%の方が非常に良かった、良かったとの回答となった。

③小水力発電の学習会では、参加者から多数の意見が上がり、再生可能エネルギーに関する知識の向上及び町内にある小水力発電所への理解が深まった。

④環境ブースでは、受付簿に記載していただいた人数のみで123名(町内98名、町外25名)の来場があった。また蓼科ケーブルビジョン様に取材を受け、ブース内の様子が放映された。

#### ※自己評価【 B 】

##### 【理由】

・環境情報紙の発行、イベントの開催は予定通り実施することができた。しかし環境情報紙は、読みやすさや記事の内容等に改善点があった。

・発行した環境情報紙に対して、電話や窓口にて質問や意見を多数いただいた。またイベントには環境情報紙を見て来場された方が多く、特に環境ブースには計123名の来場があった。

## 今後の取り組み

### 1 環境情報紙の発行

前年度の経験や反省点を活かし、町民の方がより興味を持っていただけるような立科町に関する記事や読みやすい記事を作成し、町内全戸及び事業者へ配布を実施。(各4,000部発行)

また町内全戸に配布予定であるタブレット及びスマホアプリを活用して、環境に係る情報や電子版の環境情報紙を配信する。

### 2 環境フェアの開催

環境情報紙と内容を組み合わせたワークショップとして出展し、立科町の環境への取り組みを説明、再エネ機器を使った体験学習等を実施。(参加者目標：300人)

### 3 水辺教室

立科小学校の3～6年生に参加の募集を行い、立科の川の水質を調べる水辺教室を開催する。講師を派遣し体験学習を行うことで、環境意識の向上に努める。

### 4 環境啓発講習会

分館長会議の際、環境啓発講習会を開催する。ごみの分別や町の環境に対する取り組みを講習することにより、分館長から地域の方々へ環境に関する情報を周知・啓発する波及効果を期待できる場となる。

## 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ワーケーションや開発合宿による新しい働き方誘致事業
事業主体 (連絡先)	立科町企画課地域振興係 (電話：0267-88-7315)
事業区分	(6) オ その他地域の特色、個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,540,999 円 (うち支援金：2,832,000 円)

### 事業内容

白樺高原エリアを中心に、宿泊施設を活かしたワーケーションや開発合宿の誘致に取組み、当町が新しい働き方を進める町であるとの認知を広め、当町と企業との関係性を構築して町内に雇用を創出するなど、今後の産業育成につなげることを目的とする。

取組内容として、新しい働き方を後押しするための情報をウェブサイトや SNS で提供した。また、ワーケーションに詳しい有識者をゲストに招いた経営層向けの連続ウェビナーを4回開催し、当町への誘導を図った。

併せて、受入側の意見交換会や受入の際に便利な備品を追加で準備することで、体制強化を図った。

### 事業効果

受入回数(開催回数)が33回となり、受入人数は去年度実績172名から増加し452名となった。企業型ワーケーションの特徴である、社員全体やプロジェクトメンバー、グループ同士といった多数での利用が広がった結果であり、当エリアにとって地域振興の一つとなった。

また、昨年度に引き続き、ワーケーション開催企業から、当町の住民である住民ワーカーへ仕事が発注された。これはワーケーションやを入り口とした地域課題解決(地域の雇用創出)の好取組事例といえる。

他に、ウェブメディアや海外メディアに取り上げられたことで、認知向上につながった。

### 今後の取り組み

今年度の実施で得た知見を活かして、主に以下のことについて取り組んでいく予定である。

○高原エリアにおけるコワーキングオフィスの活用

宿泊施設をワーキングスペースとして活用するだけでなく、白樺高原エリア(女神湖畔)に新設されるコワーキングオフィスの運営と連携を図り、これまでの観光客に加えて、新しい働き方をする人達から選ばれる高原エリアになるよう取組を推進する。

○地域への波及

当町を訪れた企業との接点を積極的に活用し、住民雇用に結びつく事例を増やす。



#### 【連続ウェビナーの案内】

#### 【目標・ねらい】

- ①ワーケーションの開催誘致
- ②観光業を中心とした産業振興
- ③企業との関係性構築
- ④町内雇用の創出

※自己評価【 B 】

#### 【理由】

計画どおりの事業実施に加えて企業に向けた取組が奏功したことで全国的に注目を集める取組みとなったことは一定の成果である。

しかし、まだ開催回数を増やす余地が大きい。

## 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	こもろふれ愛フェスティバル
事業主体 (連絡先)	一般社団法人小諸青年会議所
事業区分	⑧その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,093,734円(うち支援金:4,074,000円)

### 事業内容

今この時しか経験できない一生に一度の大切な思い出や絆を親や友達と作ってもらいながら、地域の温かさと郷土の良さをより知ってもらうこと。夢を持つキッカケ創りと、小諸の魅力をより発信し郷土愛を深めてもらう事を目的にこもろふれ愛フェスティバルを実施いたしました。

#### 【日時】

2022年 9月24日(土)

AM10:00~PM16:00

#### 【規模】

延べ参加人数 4,300名

### 事業効果

- ① 各ブースにおいて日常ではなかなか触れ合えないような体験を通して家族や友達とのコミュニケーションを図り、忘れられない1日にできました。
- ② 子ども達の将来の選択のきっかけづくりの機会に各企業と共同して、学校では体験できないような職業体験を通して、子ども達の将来やりたい事・夢などを育ててもらえ興味を持ってもらうきっかけ作りを行う事が出来ました。
- ③ 郷土愛、地域にある様々な飲食店に地域の食を通して郷土の魅力を再確認していただくきっかけづくりを行う事が出来ました。

### 今後の取り組み

今回の開催した「こもろふれ愛フェスティバル」にて小諸の魅力と絆の大切さを発信することが出来たと思います。今回限りで終わりにするのではなく継続的に地域の魅力を発信することで、子ども達に郷土愛を深めてもらう事が出来ると思います。また、より多くの来場者に楽しんでもらい思い出と絆の大切さを再認識してもらうために来年度の開催に向けて小諸青年会議所内で話し合いを行っていきます。

私たち(一社)小諸青年会議所では、今回の「こもろふれ愛フェスティバル」をきっかけに今まで以上に学校や地域の団体・企業と連例を行いながらさらに小諸市を魅力あるまちにしていけるよう活動を行っていきます。



【モザイクアート】

#### 【目標・ねらい】

- ① 子ども達の思い出作り
- ② 夢のきっかけづくり
- ③ 郷土愛の醸成

#### ※自己評価【B】

##### 【理由】

昨年度よりも来場者数が多く、たくさんの方たちにご来場いただきました。また、夢ブースへの出店企業さんも多くとても良かったです。

## 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地元の企業で作る佐久ウエディング PR イベント
事業主体 (連絡先)	佐久ブライダル協議会 長野県佐久市長土呂 1 1 6 9 - 7
事業区分	(8) その地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,487,425 円 (うち支援金 : 1,115,000 円)

### 事業内容

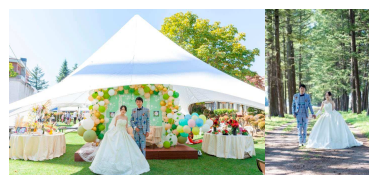
- ・市民が多く集まる“ぞっこん！さく市”へ出展してフォトブースを作成し、定期的にアルクマと鯉太郎を登場させて集客し、「佐久ウエディング」の説明・相談会、ブライダルアイテム展示を行い、佐久でのウエディングのPRを行った。
- ・ぞっこんさく市では両日1組、コロナ禍等の理由にて結婚式が出来なかったカップルさんにドレス・タキシードをお召し頂いての写真撮影を行って、結婚式の人気演出のバルーンリリースを行い皆でお祝い出来た。
- ・佐久ウエディングを説明、PR・情報発信するツールの作成が出来た。  
「佐久ウエディング説明・相談会イベント告知用チラシ」  
「インスタグラムを使ったPR活動」

### 事業効果

- ・ぞっこんさく市への出店で佐久ウエディングチラシを100枚程配布する事が出来た。  
さらに冊子を使って詳しく佐久ウエディングの説明を2日で10組行う事が出来た。
- ・アルクマや鯉太郎を使いフォトブースでの撮影会を行い来場者に喜んで頂けた。
- ・「佐久ウエディング」で挙式をあげたカップル数  
4組 経済還流効果 4組合計 ¥5,576,274.-  
2022年10月現在

### 今後の取り組み

今年もコロナの影響を大きく受けて佐久ウエディングの実施組数があまり伸ばせていない現状である。引き続きPR活動を定期的に行い、地域経済の向上に貢献し、人口増に繋げていきたい。



【ぞっこんさく市の様子】

【目標・ねらい】

① 佐久ウエディングのPR活動

※自己評価 **【A】**

#### 【理由】

天候にも恵まれ多くの皆様にご来場いただきPR活動が出来た。2組のカップルにもフォト婚をお楽しみ頂け、バルーンリリースで来場者にもご協力頂き皆で祝福が出来た。

## 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	2022 佐久っとサイクル推進プロジェクト
事業主体 (連絡先)	佐久地域自転車活用推進協議会 長野県北佐久郡立科町芦田 870 電話：090-4522-6001 代表：小林良雄
事業区分	(2) 保険、医療、福祉の充実 (地域協働の推進)
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,153,250 円 (うち支援金：1,722,000 円)

### 事業内容

- ① 佐久っとサイクルプロジェクトで設定されたコースの試走。(計画 28 コース中 14 コース)  
実績：8 コース
- ② 市民参加型のガイドサイクリングの実施。  
(計画 全 4 回) 実績：全 4 回
- ③ 自転車を活用した健康づくりセミナーの開催。  
(計画 全 2 回) 実績：全 4 回
- ④ 次年度に向けた人材育成。(地域との連携)  
(計画 全 4 回) 実績：全 2 回



【健康サイクリングの様子】

### 【目標・ねらい】

- ① 私生活へ自転車の活用推進
- ② 健康づくりへの意識向上
- ③ 関係人口づくり
- ④ 地域の魅力再発見と発信

### 事業効果

本事業をきっかけに佐久地域で自転車を活用した事業者が連携をもち、地域内に自転車の利用促進とプロモーションに向けて一緒に動き出すきっかけをつくることになりました。さらにガイドサイクリングの参加者の中からガイドセミナーへの参加もあり地域内で想いをもつ者同士がつながり始めました。この成果を次年度にむけて発展させていきたいと思えます。

### ※自己評価【B】

#### 【理由】

9月に交付決定され、寒くなる前の実質2ヵ月しか積極的な活動ができない中で計画した8割の事業ができたこと、次年度につながる人脈とレポートが取れたことが良かった。次年度は実施時季を間違えず、より効果を出せる取り組みにしていきたいと思う。

### 今後の取り組み

本事業において現職の介護福祉関係者の参加もあり貴重な意見をいただきました。介護の必要になる方々の理由の多くに、つまづいて転倒⇒骨折など怪我の治療が長引く事で筋肉の運動低下⇒要介護者になるケースが多いというお話です。次年度に向けては、ここの部分をより勉強して自転車をもつ運動効果や周辺認識能力、バランス力など関係性のありそうな特性を紐づけし活かして行けるようにしたいと思います。



### 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	御影用水の観光、教育、啓発推進事業
事業主体 (連絡先)	御影用水・陣屋応援隊 (小諸市御影新田 894-24 御影用水史料館内 電話 0267-25-1210)
事業区分	④安全・安心な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	846,731 円 円 (うち支援金: 650,000 円)

#### 事業内容

- 1 講演会の開催  
住民が御影用水と陣屋の歴史と文化を考える機会とするため、御影の宝について意識啓発と情報提供を行った。
- 2 SNSでの発信  
御影用水・千ヶ滝湯川用水の歴史と役割についてユーチューブ、フェイスブックで発信した。
- 3 電子教材の発行  
制作したPVビデオをSNS及びDVDにより発信した。
- 4 啓発資料の作成  
リーフレット1,000部及びパンフレット1,000部を地域住民 上流軽井沢町、御代田町住民に配布した。
- 5 県史跡「御影陣屋跡、御影用水史料館」の案内板設置  
設置場所 小諸市御影新田 県道借宿小諸線沿い  
サイズ 約1m×3m
- 6 世界お米食味コンクールにおいて発信  
作製した啓発資料及び用水管理の近代化についてブースにて発信した。



#### 【目標・ねらい】

- ① 普及啓発資料の作成
- ② 案内看板の設置
- ③ 講演会の開催
- ④ 史料館入場者数の増加

#### ※自己評価【A】

#### 【理由】

米作りにおける用水の重要性、維持管理の大切さが認識されるとともに貴重な歴史的資産であることが知らされた。

#### 事業効果

- ・上流域住民は、河川と用水の違いを、放流水の浄化、ごみの投入禁止、景観の保全、立木の伐採、転落事故防止、防災（越水被害防止）の意識啓発となった。
- ・下流域住民には、用水の恩恵（米作、畑作利用）や防火用水としての役割を理解することにより、用水浚いの必要性の啓発となった。
- ・学校、公民館活動の一環として学習することにより、地域の歴史的文化財としての重要性及び将来の農業振興についての啓発となった。
- ・関係する団体及び行政機関での研修により、未来を担う後継者の育成と共に維持管理の重要性の啓発となった。
- ・一般に広く御影用水と陣屋の情報が知られ、新田米、ブロッコリー等の農業生産物や直売所の存在が知られ新たな市場の開拓となった。
- ・天領の里御影用水史料館及び長野県指定史跡御影陣屋跡への来場者（令和3年度来場者16人）が増加し観光PRとなった。
- ・天領の里御影用水史料館の入場者数が令和5年1月現在60人と4倍となった。

#### 今後の取り組み

今後作製した啓発資料により多くの住民に趣旨の理解を求め、用水の有用性と維持管理の重要性、さらには防災についての普及啓発を広範囲に広めて事業を実施する。

## 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「快適健康都市 SAKU」にて出会えるビジネスを求めて～SAKU メッセ 2022～
事業主体 (連絡先)	SAKU メッセ 2022 実行委員会 【事務局】(一社) 佐久産業支援センター 長野県佐久市中込 2336-1
事業区分	⑥産業振興、雇用拡大に資する事業 オ. その他地域の特色、個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	14,832,745 円 (うち支援金: 3,304,000 円)

### 事業内容

「魅力ある佐久の企業」と「快適健康都市SAKU」を知ってもらい、ビジネスを呼び込み、「しあわせ健康都市SAKU」の実現を目指すとともに、市民にもSAKUの魅力を感じてもらい、健康意識を向上させることを目的として開催した。

- ・期間: 9/30(金)～10/2(日)
- ・場所: 佐久創造館
- ・展示/マッチング商談会参加企業/団体数: 50
- ・来場者数: 3,738 人



【展示会場の様子】

### 【目標・ねらい】

- ① 市民参加の健康測定・体験による健康意識向上
- ② 地元企業と県内外企業との取引促進
- ③ 地元・県内外企業および市民と医療機関の交流促進

### 事業効果

多くの市民、企業関係者に来場いただき、以下の効果が得られた。

- ① 健康体験ゾーンでの健康測定/体験には約1,600人の市民が参加し、健康意識の向上に寄与した。
- ② 出展企業/医療機関の製品/サービス/技術のPRにより、マッチング商談18件の他、会場内/展示会終了後に14件の商談があった。
- ③ 出展企業/医療機関の製品/サービス/技術を多くの市民に知っていただくことができ、企業従業員や医療関係者の家族の理解も深められた。

### ※自己評価 【 B 】

#### 【理由】

佐久市の強みである「健康・医療」と「魅力ある企業」を多くの方に知っていただくことができた。

### 今後の取り組み

今回は初めてのリアル開催であったが、佐久市の強みである「先進の健康・医療」と「尖った技術の魅力ある企業」を結び付け、「快適健康都市」としてブランディングし、地域外へのアピールを行うとともに、市民の健康意識を高める取り組みの第一歩を踏み出すことができた。出展企業の90%が来年も継続して出展する意向を示しており、医療機関も健康体験コーナーへの出展を検討するなど、「市民参加型の健康・医療産業展」のベースは固まりつつある。今後は、このベースをアピールポイントとして、地域外の健康医療関連企業・団体呼び込み、展示・商談会に参加する企業のエリアを拡大し、規模を拡大するとともに、「健康快適都市佐久」の実現に寄与するメッセとして発展させたい。



### 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	南牧村イベントプロモーション強化事業
事業主体 (連絡先)	南牧村 (南佐久郡南牧村大字海ノ口 1051 番地 電話 0267-96-2211)
事業区分	(8) その他地域の元気を生み出す地域づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,091,000円 (うち支援金: 2,472,000円)

#### 事業内容

ランディングページ(LP)と電子クーポン、この二つのツールを使って期間中切れ目無く情報を発信し、観光客にイベントへの訪問だけでなく飲食店等の利用も促し、南牧村の魅力余すところなく体感してもらう。

コロナ禍で観光客が減少し売上げが低迷した観光業への経済対策の一環としておこなう。LPについては広報の効率性や地域の一体感を創出し、電子クーポンについては若年層を中心に幅広い年代層への誘客をねらう。



【旗艦イベントプレオープンの様子】

#### 【目標・ねらい】

- ①南牧村への関心度の向上
- ②観光事業者の所得増加

#### 事業効果

- ①ランディングページの入口の一つである南牧村公式フェイスブックの「いいね」数の記録更新とはならなかったが閲覧数が格段に伸び、これまで以上に南牧村に関心を持っていたと推察する。
- ②LP等を活用した積極的な広報とイベントの開催により南牧村への誘客を促し、コロナ禍で落ち込んだ観光事業者の所得増加が期待できる。

#### ※自己評価【B】

#### 【理由】

- ・南牧村公式SNSへの閲覧が増加し、観光地として訪れようとする関心の高さがうかがえた。
- ・電子クーポンの登録者数は延べ3,000人を超え観光事業者への誘客に一定の効果があった。

#### 今後の取り組み

ランディングページ(LP)についての効果を今後詳細に検証し、広報の効率性や地域の一体感創出の観点から継続的かつ充実度と精度を高めた実施に向け検討を進める。

電子クーポンについては、事業を実施するたびに高額が発生することから、協賛店へのアンケート等を実施したうえで、費用対効果や観光事業者等の景気動向を踏まえ、事業のあり方を検討していく。

イベントの際のチラシ・ポスター等を削減し、ゼロカーボンに向けた取り組みも強化していく。